



ただいた、子どもの遊び場を整備するなど、多くの人々に利用されるエリア一体型の開発も検討できると思うがご所見を伺う。  
子供未来局長  
青下水源地周辺は、豊かな自然に囲まれ、水道記念館が立地しているほか、ダム関連施設などの歴史的資産を有する。本市の貴重なエリアであると認識している。

### 市民に愛されるべき公園に 米ヶ袋一丁目公園整備

◎(仮称)米ヶ袋一丁目公園(魯迅記念公園)整備について伺う。当局は、令和3年度の公園開園を目指し、県・市日中友好協会と連携をとっている。本年5月に県日中友好協会へ公園のコンセプト案を説明したところ、魯迅像の寄付について協会から提案があったと伺った。そもそも、魯迅像や、魯迅の記念碑は、本市内にくくあるのか。併せて、仙台清祖伊達政宗公の像はいつあるのかも伺う。  
文化観光局長  
現在、市内において把握しているものとしては、魯迅に関するものとして、像が3点、記念碑が1基、魯迅下宿跡を示す碑が1基ある。  
また、伊達政宗公の像については、3点ある。



魯迅記念碑

◎本年9月に、県日中友好協会から、10月に開催される「魯迅文化基金」主催の「魯迅文化周」という会議において、本市の公園整備計画と、県の協会からの魯迅像寄贈の意向を伝えたいと打診があった。ところが、当局は「検討する」と回答したと聞いた。権威ある場で魯迅像の寄付計画が発表されれば、それが既成事実となりかねず、不適切であると考え、因みに、魯迅像の寄付について、具体的な資金源について伺う。  
建設局長  
魯迅像の寄付については、打診はあったものの概要や詳細については判断していないことから、今後公園を整備していく中で検討してまいりたい。

子どもの遊び場については、今後、都市公園をはじめ本市の様々な資源の実態や、それら資源の子どもの遊び場としての活用可能性などを調査していく考えである。  
その中で、この青下水源地エリアを含め、秋保、作並など、豊かな自然に恵まれた西部地区での子どもの遊び場の環境づくりの可能性についても、検討してまいりたい。

◎ところで、チャイナの作家・魯迅はチャイナでは国民的作家かもしれないが、我が国に対しては何か偉大な貢献をされた人物なのか。当局のご所見を伺う。  
文化観光局長  
魯迅は明治37年から明治39年3月までの約1年6か月間、旧仙台医学専門学校に留学し、本市に滞在した。その間、藤野厳九郎氏より解剖学を学び、その指導を通じて大きな感銘を受けた話は、「藤野先生」という文章により、日中両国において、広く知られているところである。  
こうした経緯が、多くの中国の方が本市を旅行先や留学先を選ぶことにもつながっており、魯迅は、現在も、両国交流の一つの契機となる文学者であると認識している。

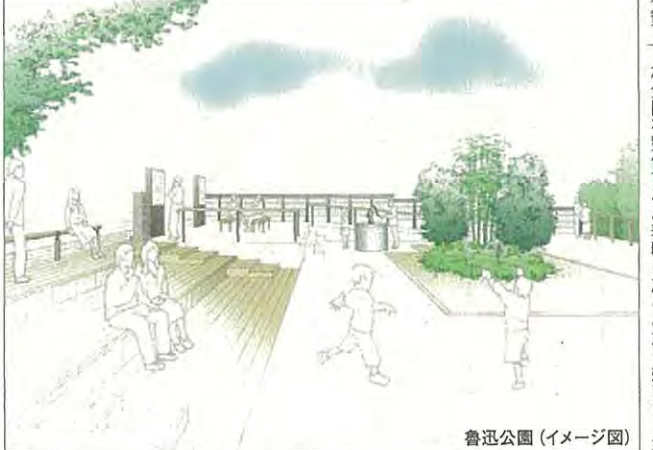
◎魯迅は、「左翼作家連盟」の中心人物として、中国共産党と連携しつつ我が国への敵対的政治運動・抗日的文学活動を展開してきた人物である。こうした人物を、わずか1年あまり仙台に在居していたということのみをもって、記念公園を設け、まして銅像まで設けることは違和感が残る。ちなみに、魯迅の像や碑は、既に仙台市博物館を始め複数箇所に設置されている。  
土井隆輝、井上ひさしについては一定の顕彰がされているが、仙台ゆかりの文学者には、真山青果、北杜夫など他にも多数存在する。本来ならば、こうした顕彰が不十分な郷土の偉人・文学者こそ積極的に顕彰すべきであると考え、ご所見を伺う。  
文化観光局長  
本市では、仙台文学館の開館以来、常設展、特別展等において、真山青果、北杜夫をはじめ、島崎藤村、阿部次郎などと仙台・宮城と深いゆかりを持つ多数の文学者を取り上げてきた。  
また、出前講座を通じて、文学者の生涯と功績を市民の皆様にご覧いただくなど、多面的な顕彰に努めているところだ。  
今後とも、郷土ゆかりの文学者の足跡に光を当てる取り組みを継続してまいりたい。

### 歴史文化あふれるまちづくり 芭蕉の辻

◎芭蕉の辻は案内の通り、旧仙台城下町の中心基点であり、江戸時代に仙台に訪れた旅人の紀行文では「芭蕉の辻の建物の豪華さ」がしばしば称えられて記述されるなど、当時の仙台の「顔」であり、本市にとって、重要な歴史的遺産である。  
しかし、現在残されているのは記念碑のみであり、憂慮した市民団体が3年前から芭蕉の辻の在り方を、多くの市民とシンポジウムなどを通じて、本市に数度にわたり提案してきたところだ。  
その甲斐あって、道路整備や無電柱化が進められている。時間は掛かるが、着実に市民が誇れる財産として、芭蕉の辻が甦るようになっている。  
これに伴い、同市民団体と更に連携し、市民が中心となる様々な動きがある中で、本市は積極的に協力するなどの強化を求めている。  
更に、仙台駅、定禅寺通の間を繋ぐエリアとして、正式に芭蕉の辻を中心とした、歴史的拠点を重視したまちづくりをすすべきと考えるがご所見を伺う。

◎孔子も魯迅も政治の駒」という論考があるが、独裁国チャイナでは、自らの政治的正統性を宣伝する為、更にはチャイナの文化浸透政策の「道具」として歴史上の人物を政治利用するのが常である。かつて江沢民氏が本市を訪問し、魯迅像を繰り返し、自身の政治的正統性を暗に内外に示し、覇権的独裁政治を期望した悪夢が想起される。  
ここで過激なまでの「魯迅顕彰」を進めることで、覇権的独裁政権である中共に對し、本市が融和的であるとの誤ったメッセージを世界に発信してしまうのではないかと危惧する。米ヶ袋一丁目公園整備に際しては、公園内に新たな魯迅像の設置は断じてやめるべきと考えるがご所見を伺う。  
◎12月7日に当該地区の住民説明会が開催された。住民説明会では、「魯迅記念公園」と命名すると、政治的に利用されるのではないかと懸念する地域住民の意見があった。ところが、私も同感である。本市に貢献しているわけでもない外国人の名前を冠した公園などとするのは、公園名には魯迅の名称を付けるべきではないと考えるがご所見を伺う。  
公園内には土地所有者であった佐藤家との関係を記した碑に留め、公園名は地域の子ども達から募集するなど、本市自らが整備する本来の目的を逸脱してはならないと

市長  
芭蕉の辻は改めて申し上げるまでもなく、藩政時代から城下町仙台の町割りには大変重要な役目を果たした。起源は、南北に奥州街道、それから東西には仙台城址大手門から城下町へと続く大通りが交差するところだ。まさに城下町の中心であった。その後、商業や金融の地として栄え、戦災により当時の街並みというものは失われたが、今なお、本市における特色あるまちづくりを考える上で重要な地区であるのは間違いないと思っている。  
現在、地元関係者による協議会の場において、地区のまちづくりの将来像について意見交換等が重ねられており、本市としても、協議会に参加することにも、まちづくり専門家の派遣など、支援を行っているところである。  
これまで先人が築き上げてきた歴史的な価値や文化など、誇るべき地域の価値、個性や魅力を大切にしながら、地域との協働により新たな賑わいや活力を生み出していくことは、本市のまちづくり



魯迅公園(イメージ図)

建設局長  
当該公園の計画は、平成16年10月に魯迅仙台留學100周年記念碑前祭において、メモリアル広場の地公園を整備すると表明したことから始まり、地域のの方々からも期待されているところだ。  
また、公園の名称については、通常町名を用いているが、地域の皆様のご意見も伺いながらあわせて検討してまいりたい。  
◎銅像の件、また実態を把握していないとのことだが、地元の説明会で地域住民の方への配布資料の中にあった公園の整備地図に銅像の絵が「ここに置きます」というふうに記載されている。決まっていなくても設置するかどうかは問題だと思ふ。前に資料として出してしまうことが問題だと思ふ。また、先ほど政宗公と魯迅像の個数を聞いたが、政宗公の方が1個少ない。魯迅の方にそんなに気を遣う必要はないと思ふ。  
建設局長  
地元説明会に使ったA3サイズの平面図の中には、確かに、置くとしたらこの辺かということ、印をつけた資料をお配りした。  
ただ、銅像であるとか、そういう表記、銅像、胸像なのか全体の像なのか分からないので、それに対する説明あるいは資料等は、一切付けずに、印を置いてみたということだ。  
碑のお話についても、これから関係部局の方と調整をさせていただければと考えている。



芭蕉の辻